

先生方のための徹底入試対策講座

第137回 共通テスト直前対策！

共通テストが近づいてきました。2021年度は比較的手の付け易い問題が多く平均点もそれ以前のセンター試験の時代と大きくは変わらず、I・Aは57.68点、II・Bは59.93点でした。ところが、2022年度は、はるかに難化し、平均点はうんと下がり、I・Aは37.96点、II・Bは43.06点で、想定以上の驚くべき変化でした。

2023年度はどうなるのでしょうか。2022年度は共通テストの目的とその性格から考えると、確かに難し過ぎた感があります。2023年度の難易度は確実に低下します。低下せざるを得ません。ただし、2021年度までは下ならず、最近2年の間に行くのではないかと予測しています。でも、センター試験の時代よりは難しい共通テストですが、対策は共通テストの特徴的な難しさを覚悟しておかねばなりません。



ここで共通テストの出題傾向の流れの上に乗って、今からできる、直前対策・実戦対策、生徒へのアドバイスなどについて考えてみましょう。

直前の対策① 我流の解法に執着せずに設問に従って柔軟に考察を進める

問題には誘導やヒントが書かれていることが多いですね。でも、生徒の中には、自分が思いついた解法で計算を進め面倒な計算に陥っても方針を変えようとせず、何とかして解こうとするものが少なからずいます。一般に出題者が想定した解法で考察を進めていくと解答欄を効率的に埋めることができることが多いようです。ときに同じテーマを異なった二つの方針で考察する出題もあります。

これら、特徴的な出題に対応するためには、もうまくいかないようなら「自分の思いついた」解法ではなく、出題者の考えについていく解法は何なのだろうと、考える、我流の解法に執着しないようなおおらかさ、柔軟さを持つ必要があるようです。数学にそれなりの自信がある生徒の中には、誘導よりうまい解法で解答を見出そうとすることもあるようで、私たちが講義中についてそのようなまい別解を話すからかもしれません。しかし原則的なことはしっかりと伝えておきたいですね。

直前の対策② 状況次第で、問題の後半を見切るのも、作戦の一つ。

共通テストの難問では、前半は比較的容易に進み後半で行き詰まることが多いようです。問題の前半は誘導付きの設問で、比較的やり易いものになるかもしれません。しかし、後半に入ると同じテーマではあるものの、前半の発展的内容で最後の結果のみ問うという出題形式もすでに出題されています。前半は誘導に従って計算を進め、結果を得て、後半において同じように解こうとしても手が出ないというようなことも考えられます。

ところが、一つの解答欄の配点は多くは3点どまり。例えば誘導付きの前半の配点は14点、誘導なしの後半は6点、前半だけで7割の得点ということがありました。これが共通テストの配点の特徴の一つです。後半に、前半以上の時間と労力をつかったものの、得点の比率は時間と労力に見合っておりません。得点の効率を考えれば思い切って後半を見切るという判断もこの場合は合理的かもしれませんね。もちろん、時間に余裕が出来たら、戻ればよいのですから。模擬試験や問題演習で、こうした可能性も視野に入れて柔軟に対応することも必要ですね。

直前の対策③ 出題形式に惑わされないために数学的内容を取り出す問題演習を！

日常生活や社会現象が題材の出題もあります。このとき、数学的な内容・表現を読み取ることが難しく感じるのではないでしょうか。会話形式の出題ならなおさら数学的内容を取り出しにくいかもしれません。しかし、このような難しさは、数学の難しさとは全く別物で、ちょっとした練習で容易に読み取れるようになります。

日常の題材、会話という出題形式に惑わされず数学的内容を取り出す、読み取った数学的内容はメモする、そうしてはじめて数学の問題として考察することができるというものです。こうした形の演習も必要ですね。

学校法人河合塾 数学科講師 **大竹真一**